

神戸経済ビジョン 概要版

2030年神戸経済の将来像 OPEN × CONNECT

2018.03.05



神戸商工会議所
The Kobe Chamber of Commerce and Industry

神戸経済ビジョン OPEN × CONNECT (広く開かれ、神戸でつながる)

**= 世界へ開き、融合と革新を続ける神戸クラスター
つながりを進化させる産学官のパートナーシップ =**

● 策定主体・時期 神戸商工会議所 2018年(平成30年)3月

● 趣旨・目的

・開港150年を節目に、神戸の強みを再定義し、神戸経済の目指すべき将来像や都市政策・産業経済政策について経済界の立場から発信し、商工会議所の重要な役割である政策提言活動において、プレゼンスを高める。

(本ビジョンは商工会議所単独の行動計画とは位置づけが異なり、中長期の視点に立ち、神戸経済全体のあるべき姿を将来展望として掲げるもの)

・目標年度は概ね10年後「2030年」頃とし、内外の幅広い関係者とビジョンの共有をはかり、その実現に努める。

2018

1. Overview 現状認識と課題

● 時代背景を捉える

『社会的な環境変化』

(全国的な人口減少/神戸では都市基盤整備、プロジェクトが進む)

『技術的なブレイクスルー』

(世界的な技術革新/神戸ではものづくりに加えて、健康・医療産業が強みに) が融合し、新たな産業、社会システムが生まれる。

➔ 2030年に向けて、大きなイノベーション(革新)が起こる時期。

■ 社会経済情勢の変化

人口減少 技術革新の進展 グローバル競争の激化

■ 神戸経済の強み これからの可能性

- ・震災20年を経て新たなステージへ
- ・2030年に向けて大型プロジェクトが進展
- ・住みやすさ・働きやすさ、良好な都市イメージ
- ・陸海空の交通ネットワークの充実
- ・製造業や健康・医療産業をはじめ多様な産業集積
- ・異文化を受け入れる土壌・多様性
- ・海と山の景観、大学・研究機関の集積 など

■ 神戸経済の弱み 克服すべき課題

- ・域内の二次交通・南北アクセスの整備の遅れ
- ・産業構造転換の遅れ、IT活用 スタートアップ企業不足
- ・人や企業を呼び込むシティセールス体制整備の遅れ
- ・実効ある産学官連携の取り組みの遅れ など

2. Classify 都市・産業経済政策の視点に分類した方向性

● 都市政策の方向性

- ・神戸においては、多様性、海と山の景観、働きやすさ、住みやすさなど、今あるリソースを最大限に活かす必要がある。
- ・同時に、都市基盤整備が加速し、国際的なイベントが開催される2020年代こそ、都市構造の転換を図り、国内外から人や産業を呼び込む大きなチャンス。その活力を市内・県内はもとより関西全体に広く波及させていく。

- ①働きやすさ 住みやすさ 多様な人材・企業を誘致
- ②神戸をデスティネーションとする滞在型観光の推進
- ③陸海空の交通結節機能の強化
南北アクセス・域内交通体系の整備
- ④都心三宮・ウォーターフロントの再整備
- ⑤六甲山の新たな価値創出・アクセス改善
- ⑥集客・文化施設の再整備・再配置

● 産業経済政策の方向性

- ・ものづくりや健康・医療産業をはじめとする(リアルの現場やデータを持つ)神戸の多様な産業が技術革新を取り入れ、また産学官の相互の連携により、ビジネスの付加価値を高めていく大きなチャンス。
- ・そこから新たに生まれるイノベーションやシナジー効果を地域に根差す幅広い業種・業態の企業に広く波及させていく。

- ①先端技術・産業の集積 オープンイノベーション推進
- ②健康・医療産業の集積・有機的な連携
- ③スポーツ産業の振興・地域活性化
- ④生活文化産業の振興・ブランド力の深化
- ⑤海事産業の集積・クルーズ客船の母港化
- ⑥地域で活躍する企業の
アライアンス促進・経営基盤強化

3. Vision 神戸経済が目指す将来像 (ビジョン)

内外の情勢、神戸の都市政策・産業経済政策など多面的な検討や意見集約を経て、2030年の神戸経済の将来像 (ありたい姿、目指すべき姿) をその手法も含めて、ビジョンとして掲げる。

2030

OPEN × CONNECT

(広く開かれ、神戸でつながる) 世界へ開き、融合と革新を続ける神戸クラスター
つながりを進化させる産学官のパートナーシップ

[2030年の基本目標・目指すべき姿] 都市政策の5つの基本目標

- 世界にオープンに開かれエッジの効いた人材や企業が集まり、交流するまち
- 中心部に人・産業が緊密につながるクラスターを形成
コネクト&コンパクトなまち
- 快適に住み、学び、働き、何度でも訪れたいくなるまち
- 海と山の景観・ロケーション
オンリーワンの地域資源が人を魅了するまち
- 陸・海・空の交通ネットワークがシームレスに快適につながるまち

[2030年の基本目標・目指すべき姿] 産業経済政策の5つの基本目標

- 産学官の知見やアイデアが交わり、人・産業・地域の活力を創造
- 健康・医療産業の強みを発揮し、健康寿命の延伸に貢献
- ものづくり産業の強みを活かし +イノベーションを創出
- デジタルテクノロジー (IT) ×リアルな現場で
サービス・ソリューションを創出
- グローバル × ローカル (地域で活躍する企業) の
アライアンス・融合を促進

- 2030年に向けた、神戸においては中心部に産業・都市のエンジン機能を凝縮し、そこで、多様な人・産業を「コネクト」(融合・結合)させ、イノベーション (革新)を生み出すクラスター (集合体)を形成することこそが、新たな成長の源泉となる。
- 市内全域の多様かつ重層的な産業全体の発展につなげていくためにも、神戸の都心・道路・港・空港の機能強化が同時期に、かつ確実に進捗する10年間を大きなチャンスと捉え、これまで停滞していた中心部の結節機能を強めていく。そこから生み出される活力を広く波及させ、地域経済全体、関西全体の発展に貢献していくことを目指す。
- そのプロセスにおいては、産学官の強力なパートナーシップをもって、人・産業の緊密なつながりを進化させていくとともに、開港以来神戸が育んできた進取の気風、多様性・国際性というDNAに、新時代のデジタルテクノロジーなどを掛け合わせ、国内外へ常に「オープン」に開かれることが強く求められる。



- 「神戸クラスター」の考え方
医療産業都市という単一テーマのクラスターではなく、神戸の中心部の南北軸における多様かつ重層的な産業や研究機関の集積全体をクラスターとして位置づける。
具体的には「健康・医療」分野のみならず「ものづくり」「観光・コンベンション」「スポーツ」「生活文化」「海事」など多様な産業を包括し、一つのクラスターと捉えるもの。

4. Project 重点プロジェクト

2030年・ビジョン実現に向けて、オール神戸で取り組むべき、5つの「重点プロジェクト」及び、それを支える2つの「基盤プロジェクト」を明示する。



●外国人材・企業誘致推進プロジェクト

2030年に向けて、欧米に加えてアジアの外国・外資系企業の誘致を強化。

開港150年を経て、改めて外国人ビジネスパーソンや留学生に選ばれるまちとして環境整備をすすめる。

●ビジネス・教育・居住環境の整備

- ✓ 外国・外資系企業・外国人学校の集積促進
- ✓ 外国人ビジネスパーソンのニーズに対応したレジデンス整備
- ✓ 外国人コンシェルジュ機能・交流機能の充実

●人材の誘致・マッチング

- ✓ 外国人留学生の就業支援・地元企業とのマッチング機会提供
- ✓ 海外に留学している日本人の就業支援ワンストップ窓口の設置

●神戸広域観光圏周遊拠点化プロジェクト

2030年に向けて、周辺地域を含む「神戸広域観光圏」として捉え情報発信・周遊発着拠点としての体制を整備する。

「食」「健康・医療」「スポーツ」を戦略的観光コンテンツとして強調し、そのステージとして「海・山の景観・ロケーション」「コンベンション機能」を最大限に活かす。

●周遊発着拠点（つなぐ）

- ✓ 神戸広域観光圏（兵庫県内・関西・瀬戸内等）周遊発着拠点の整備

●情報発信（伝える）

- ✓ 神戸広域観光の一元的な情報発信体制の整備

●戦略的コンテンツ・環境整備（魅力をつくる・受け入れる）

- ✓ MICE誘致・コンベンション機能の充実・受入体制整備
- ✓ 六甲山とウォーターフロントにおける都市型リゾートの形成・スポーツツーリズムの環境整備
- ✓ 都心ウォーターフロントでの食（スペシャリティフード）モールの開設
- ✓ メディカル&ヘルスツーリズムの受入体制の構築

●ヘルスケア&スポーツ産業創出プロジェクト

2030年に向けて、地域の産学官が結集し、ヘルスケア関連製品やサービス開発を支援する一元的な支援体制「エコシステム」を構築。

医療の先端分野だけでなく、健康増進・スポーツなども広く包括し、健康寿命の延伸に大きく貢献する。

●ヘルスケア産業を創出するエコシステムの構築

- ✓ 国内外シーズ・ニーズの発掘、事業化までの一貫サポート
- ✓ 健康・医療データベースの構築・活用
- ✓ シードアクセラレーション機能の充実

●スポーツ産業の創出

- ✓ 神戸マラソンや参加型スポーツイベントを舞台にしたスポーツ関連商品・サービスの実証フィールドの整備

●ものづくり+イノベーション創出プロジェクト

2030年に向けて、ものづくり産業を核にイノベーションを生み出すため、スタートアップ企業や産学の連携を促進。

ものづくりのリアルの現場に、デジタルテクノロジーを掛け合わせ、高付加価値化を目指す。

●ものづくり+イノベーション創出拠点の整備

- ✓ スタートアップ企業や産学の幅広い人材が集う「シェアリングオフィス」機能の整備
- ✓ 産学協創による「実用化のための共同研究」機能の整備

●デジタルテクノロジー導入促進

- ✓ デジタルテクノロジー（IT・データ利活用）導入 IT人材育成を支援するプラットフォームの構築
- ✓ 次世代高速通信環境の整備

●アライアンス・融合促進プロジェクト (販路拡大・事業承継)

2030年に向けて、地域で活躍する企業の「販路拡大」のチャレンジや「事業承継」のつながりをサポート。

ローカル・グローバルの枠を超えたアライアンスを促進し、企業の経営基盤づくりを強化する。

●「中小企業販路拡大チャレンジ5000」の展開

- ✓ 全国バイヤー企業との個別商談会
- ✓ 海外バイヤーの招聘や海外展示会への出展など
海外企業とのビジネスマッチング
- ✓ 交通・観光施設内でのテスト販売機会の提供（チャレンジショップの運営）

●「事業承継コンソーシアム・マッチングシステム」の構築

●「技術・技能承継システム」の構築



〔基盤プロジェクト〕

● 活力創造につながる都市基盤づくり

～ 神戸中心部 南北アクセス強化 ～

2030年に向けて既定の「都市基盤整備」を加速化させるとともに、中心部の南北アクセス強化をはじめ、人や産業を呼び込み・つなぐ「都市リノベーション」に新たに着手する。

南北アクセス・ルート（海） 三宮 - ウォーターフロント

- ・みなと専用自動運転シティープバス運行
- ・三宮～国道2号線～みなとへ至る地下歩道延長や遊歩道デッキの整備

南北アクセス・ルート（山） 三宮 - 六甲山

- ・三宮 - （摩耶ケーブル経由） - 六甲ケーブルまでの自動運転バス運行

南北アクセス・ルート（空港2） 神戸空港 - 新神戸

- ・神戸中央線（新神戸トンネルと港島トンネル）の接続による自動運転バスやBRTの運行
- ・ポートライナー延伸

南北アクセスルート（空港1） 神戸空港 - 三宮

自動運転シャトルバス運行

2030年に向けた既定プロジェクトとして加速化が求められる都市基盤整備

● 都心・三宮 ウォーターフロントの再整備

☞ 都心全体のシンボルとなる知的交流、集客文化ゾーンの形成

● 大阪湾岸道路西伸部の開通 東西道路ネットワークの強化

☞ 2025年大阪万博を目途としたポートアイランドまでのいち早い開通

● 神戸港ロジスティクスターミナル & クルーズ発着マザーポートの形成

☞ 大阪湾岸道路西伸部の整備と同期させたロジスティクス拠点の整備

● 神戸医療産業都市における研究機関・病院・企業の集積

☞ 健康・医療に加えデジタルテクノロジー・研究開発関連企業の拠点を形成

● ポートアイランド・神戸空港島を含む次世代産業拠点の形成

☞ 新たに神戸空港島も含んだ次世代産業・新エネルギー拠点の形成

● 神戸空港の機能強化・利便性向上

☞ 関西3空港一体運営による最大効果を引き出すための運用規制の見直し

2030年に向けて、新たに構想策定・整備着手が必要な都市リノベーション（構想策定やプロジェクト実行が未着手のもの）

★ 中心部の南北アクセス強化

● 中心部の人・産業の集積・連携拠点の整備

● コンベンションセンターの再整備・拡充強化

ポートアイランドのコンベンションセンターの広くファッションタウンも含めた再整備

● 六甲山や東西ウォーターフロントなど

神戸独自の地域資源を活かした都市型リゾートの形成

六甲山・摩耶山から有馬まで含めたアクセス・機能トータルの整備

東西ウォーターフロントを広く捉えた須磨海岸や兵庫運河の整備・活性化

● 既存施設の再配置と新たな都市リノベーションの検討・推進

〔基盤プロジェクト〕

● まちや産業に誇りをもつ人づくり

2030年に向けて、神戸のまちや産業に誇りをもつ「将来人材」の育成、まちや産業を統一的につなぎ、動かす「ディレクター」の配置をすすめる。

● まちや産業に誇りを持つ「将来人材の育成」

- ✓ 神戸の産業を体験する小中高生の教育体制
- ✓ 文理融合によるイノベーションを誘発するSTEM人材 + 経営人材の育成支援
- ✓ 外国人の多様な学齢期・就業をサポートする教育体制
- ✓ 神戸の産業を担う経営者・経営幹部・従業員の育成支援

● まちや産業をつなぎ、統一的に動かすディレクター

- ✓ 重点プロジェクトを牽引する強力なディレクターの配置

2030年 神戸クラスタの構成要素や 都市基盤整備・都市リノベーションのイメージ図

